

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 7 月 2 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470502026		
法人名	社会福祉法人 呉同済義会		
事業所名	グループホーム温養院		
所在地	呉市焼山中央6丁目6-13（電話）0823-33-3858（代表）		
自己評価作成日	平成30年4月26日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470502026-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470502026-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年6月21日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>・家庭的な環境の中で、介護の他、日常生活のお世話及び機能訓練を行い、その有する能力に応じた自立した日常生活を営む事が出来る様サービス提供を行う。</li><li>・地域との交流を深め、地域に根差した施設作りをめざす。</li><li>・手工芸（手作り壁面）利用者様にも、出来る所は参加して頂き、楽しみながら行っている所をアピールします。</li><li>・週1回の職員と利用者様による口腔ケア（誤嚥・虫歯予防）実施 舌ブラシ、歯茎マッサージ等取り組んでいます。</li></ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>この1年間の特徴的な取組みとして、第一に「口腔内の清潔保持」がある。協力歯科医からの口腔ケアの直接指導により、各利用者の口腔状態に合わせて毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に努める他、毎週1回、舌磨き・歯茎マッサージ等を職員と共に行っている。その結果、ここ最近感染症の罹患ゼロという成果を上げ、運営推進会議でも高評価を得ている。第二に「役割、楽しみごとの支援」の促進である。定期的な手工芸ボランティアの訪問や毎月の活動により、季節に合わせた作品作りを行い、「創る喜び」を通して季節の移ろいを感じ、時には地域の文化祭への出展や見学参加を通して、地域交流に繋げている。又、三食手作りの食事や季節のおやつ作りでも「できる役割」を担うことで、利用者の経験を活かした「強み＝匠」を発揮してもらい、調理を介して職員と共に楽しみ、調理レクも「心が動けば、体も動く」を意識している。</p>
--

自己評価	外部評価	項目（グループホーム温養院 やけやま・ゆめ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域の中で利用者本位の暮らしが安心して生活できるよう、地域との交流も大切に考え、事業所独自の理念がある。 職員の意識を統一させる為、月1回のケア会議で意見交換し、実践につなげている。	母体法人の開設時に策定した経営理念を事業所理念とし、その理念・業務指針・行動目標を毎日唱和して、共有している。又、毎月のケア会議等で職員の意見を集約し、事業所理念を基に年度毎に具体的な重点取り組み事項を策定して、年度末に評価検証を行い、実践に取り組んでいる。併せて各職員の年間目標管理も導入し、個人面談で達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	自治会と合同の盆踊りや地域交流サロンに定期的に参加。また、保育園や小・中学校の訪問に参加し、地域との交流を深めている。 地域の文化祭にも出品し、参加している。	自治会に加入し、地域との合同盆踊りへ会場提供や災害時の緊急退避施設として協力している。又、月2回地域交流サロンへの参加や地域文化祭への出展・見学と共に手工芸・歌のボランティアの受け入れ等、相互交流も行われ、更に保育園や小・中学校からの訪問や夏季こども陶芸教室への参加等、世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に機関誌を配布し、介護等困った事があれば、いつでも相談を受け入れられる様にしている。又、温養院のきてくれサロンに参加されている地域の方々、認知症の勉強会を行い、理解に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的（年6回）に運営推進委員会を行い、市の行政、地域包括センター、家族代表、自治会顧問の方を交えてホームの現状を報告している。会議での意見・助言をホームのサービス向上に活かしている。年1回、利用者と一緒に食事会を行っている。	会議には家族代表・地域社会福祉法人理事・民生委員・地域包括支援センター職員が毎回、地区自治会顧問が随時、市職員が年に一度参加している。現況報告や行事報告、意見交換が行われ、参加者から、利用者の写真の笑顔や感染症対策に高評価を得て、更なるサービスの深化に繋げるべく実践に取り組んでいる。	参加者の意見・情報交換が運営に一定反映されているが、家族の参加は2名で固定化されており、議事録の閲覧体制も未整備で、参加できない家族との情報共有が不十分な面がある。今後は閲覧可能なファイリングの整備や個人情報にも配慮しつつ議事録を送付する案等、会議の活性化に向けた取組みを期待したい。
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の介護相談員の定期的来訪あり、意見交換をしている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が毎回、市職員が年に1回参加し、情報共有が図られると共に、開催報告書は市担当者に持参している。又、市の介護予防委託事業である地域交流サロンへ利用者と参加したり、年に数回介護相談員の来訪があり、利用者の声をサービスに反映する等、関係構築に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目（グループホーム温養院 やけやま・ゆめ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会議の参加により認識、理解し拘束に対する禁止を意識している。身体拘束へと至らない、質が高い生活支援を行うよう努めている。不定期ではあるが、必要時、身体拘束の勉強会をケア会議で行っている。今年度より、義務付けとなり、5月から年4回勉強会を開催する。	マニュアルを整備し、研修等にて「拘束はしない」必要性を認識しており、拘束例はない。転倒防止の床マット導入や、日中は玄関を施錠せず、見守りにて対応し、法人全体での相互支援体制が採られている。又、今回の制度改正に伴い、身体拘束の適正化に向けて委員会・指針・定期的研修の整備にも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者により、職員会議等で防止徹底指導を受けており、虐待防止に努めている。職員間でも常に虐待の防止には意識をもって取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会に積極的に参加し、理解活用に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用説明書に分かり易く記入し、入所者・家族に説明し、入居者家族にサインを頂く。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内に意見箱を設置し、気軽に意見相談が出来る様、配慮している。月に1度、利用者の近況報告をしている。又、体調不良時の報告はその都度、家族に連絡している。	利用者の意見は日々の会話の中で、家族とは意見箱を介したり、面会時や年1回の家族会・運営推進会議等で、職員や管理者が積極的に聴いたり、定期的な近況報告の便りを介して把握する様に努めており、申送りノート等で共有している。家族からの要望で、転倒防止のため低床ベッドと床マットを導入した例がある。	

自己評価	外部評価	項目（グループホーム温養院 やけやま・ゆめ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回運営委員会、職員会議、ケア会議を実施している。</p>	<p>法人の運営委員会や、事業所の職員会議・ケア会議・申し送りや年1回の個別面談等を通して意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や個人目標の進捗状況等に対する支援体制を採っている。職員の提案で天窓に遮光カーテンを設置したり、法人横断的な現場力アップ委員会も熊本地震へのチャリティを実現した。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>適切な管理・状況把握に努める。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>管理者は、認知症介護実践研修等、資格取得や育成指導に努めている。内外の研修に参加促進を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>研修会で同業者と意見交換等で交流する機会はあるが、本格的な活動は出来ていない。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前面接を実施し、ホームに早く馴染んで頂ける様、見学・体験入所（3日間）の実施を行っている。本人の要望をしっかりと把握し信頼関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目（グループホーム温養院 やけやま・ゆめ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	ホームに見学訪問をして頂き、意見要望を伺い、色々なケースに対応できる様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者・家族が必要とするサービス内容を適切に見極め、出来るだけ意向に添えるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者と一緒に昼食の準備（食材を切ったり、盛り付け等）散歩など出来る事を手伝って頂き、共に家族的な雰囲気の中で毎日の生活を過ごしている。又、手作りおやつ等も利用者の希望に応じて、メニューも提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に近況報告を行っている。必要に応じて、家族連絡も行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人などの面会の促進、地域交流サロンの活用。	「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にしており、家族の協力も含め、美容院や墓参り等への外出を通して、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。地域交流サロン参加して顔なじみになった人と旧交を温めたり、結婚した孫の新居を訪問した経緯もある。	

自己評価	外部評価	項目（グループホーム温養院 やけやま・ゆめ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の行動の見守り、トラブルが無い様配慮している。また、利用者が共に活動する機会を多くする。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	定期的に連絡するよう努めている。家族の要望、困った事があればいつでも相談にのっている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別に話す機会を持ち、出来るだけ意向に沿える様に努める。	入居時は独自の情報シートで利用者の習慣や好み等の情報を共有し、その後はその方の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、行動を理解する様努めている。それらはケア会議の議事録や申し送りノートにて共有し、意思疎通困難な利用者には表情等をよく観察して思いを推測し、関係作りをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所以前の生活経緯、その他の生活状況など個人ファイルに記録を綴っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員会議、ミーティング等で話し合い個別のケースとして記録している。その都度気付いた事を申し送りノートに記録している。		

自己評価	外部評価	項目（グループホーム温養院 やけやま・ゆめ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にケアプラン、モニタリング、担当者会議を行い、本人家族の意向に沿った自立支援に向けた介護計画を作成している。	利用者毎の担当職員と、収集した情報を計画作成担当者が集約して原案を作成し、面会時等に家族を交え担当者会議を開き、本案を策定する。基本的に3か月毎にモニタリングを集約して計画を見直す。認定更新時や状態特変時にも見直している。体力低下した利用者配慮して食事を早目に提供したプラン例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の暮らしの様子、食事、水分量、入浴、身体状況を個別にファイルに記録している。ケアプランの見直しにも活かしている。月1回のケア会議で、個別ケアについて話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	理学療法士によるリハビリ訓練にも参加。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域交流サロンに参加し、地域の人達との交流を楽しんでいただいている。年間行事の一つとして、ショッピング・ドライブを計画し、実施に向けて支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	併設の特別養護老人ホームの協力医療機関の診察を受けている。本人、家族により入所前の医療機関を希望される方もおられ、希望に沿っている。	利用前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。内科協力医から週1回、協力歯科医からも定期的な往診があり、専門医の受診は家族による。併設特別養護老人ホームの看護師や機能訓練指導員（理学療法士）と連携し、健康管理・リハビリ等、適切な医療を受けられる体制にある。	

自己評価	外部評価	項目（グループホーム温養院 やけやま・ゆめ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設の特別養護老人ホームの看護師との連絡・報告の連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退所の付添、医・看・家族と連携をとっており、情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	必要に応じてカンファレンスを行い、医務や家族の方との連携をとり、話し合っただけで対応策を早期に決めている。看取りケアについては、当グループホームでも家族の同意が有れば、終末期の支援に向けて取り組んでいる。	契約時に基本的な方針を説明し、了解を得ている。要望があれば看取りを行う方針であり、重度化した際には本人・家族・関係者と話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。過去に1例の看取り経験がある。重度化した場合に備えて、介護老人福祉施設等の申し込みの検討を依頼することもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的ではないが、緊急の場合、対応が出来る様、新任職員は必ず新任職員研修を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	併設の特別養護老人ホームとの合同防災訓練が年2回行われている。又、停電時の発電機の操作の練習、非常食の試食も行っている。	消防署指導の下、併設特別養護老人ホームと合同で年2回の避難訓練を夜間想定、利用者参加にて実施している。敷地内の法人施設全体で8名の夜勤者があり、相互協力体制もある。運営推進会議でも、災害時の一般的な協力要請と事業所を緊急退避施設として利用可能な旨を発信し、地域との協力体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目（グループホーム温養院 やけやま・ゆめ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人ファイルは、施錠の出来る保管場所に納めている。プライバシーに関する会話は、聞こえないように配慮している。写真掲載も、ご家族様に了解を得て行っている。	接遇研修等で職員の幅広い知識習得と資質向上を図る体制もあり、職員も利用者目線に対応し、尊厳に配慮出来るようになった。例えば、大事な話は居室でしたり、利用者に寄り添った、さりげない支援に努めている。職員間でも、声掛け等で不適切な対応に対しては、相互に注意し合える関係性も出来てきた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常会話から利用者の意向、希望を見出し、出来るだけ自己決定出来る様支援している。食事委員会に参加し、利用者様より好きな食べ物の意向を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の日常生活を職員の都合や業務の流れで行うのではなく、利用者のペースを大切にゆったり過ごせるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月1回ある、出張美容業者を利用される方、入所前に利用されていた美容院に行かれる方等、本人様の要望に合わせている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事中は見守りを重視している為、共に食事は出来ていないが、盛り付けや片付け等は共に行っている。手作りおやつについては、簡単に身近な食材でできるメニューを増やして、一人でも多く一緒に出来る様心掛けている。	献立は併設特養の管理栄養士が作り、その厨房から届けられた食材を事業所で調理する。食事委員会で利用者の好みを献立に反映し、食事形態も多様である。職員は食事の見守りや介助を行い、利用者は膳拭き等、役割に応じた手伝いをしている。おせち等の行事食や遠足での外食・季節の手作りおやつも好評である。	

自己評価	外部評価	項目（グループホーム温養院 やけやま・ゆめ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	併設の特別養護老人ホームの栄養士の栄養管理のもと、一人一人に合った嗜好の摂取、水分量を把握しながら支援している。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	協力医療機関である、歯科医より直接口腔ケアの指導をしてもらい、一人一人の口腔状態に合わせて、毎食後口腔ケアを行い清潔保持に努めている。週1回、舌磨き、歯茎のマッサージ等も職員と一緒にやっている。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	排泄パターンを把握し，一人一人に合ったケアを実施している。	各人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を基本に、今ある状態の維持・改善を支援している。夜間のみ、ポータブルトイレのケースが5例ある。排泄の自立支援として紙パンツから布パンツへの移行や夜間のみ紙パンツ着用や夜間排泄時の転倒防止のため低床ベッドやジョイント床マットの導入等、環境整備もなされている。	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	出来るだけ排泄をスムーズに促す為、食生活、運動に工夫しながら、個々に合った予防対策に努めている。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	本人のペースに合わせていつでも入浴出来る様準備・声掛けを行っている。入浴拒否のある利用者様には、声掛けを工夫し入浴の支援を行っている。	週に2～3回、午前中の中の入浴を基本とするが、利用者の体調や入浴習慣に合わせて、好みの入浴温度・時間や足浴で対応する等、柔軟に関わっている。入浴は半埋め込み式家庭浴槽での個人浴であり、ハード面ではシャワーキャリーや浴槽に出入りし易い浴槽台の工夫や利用者には好みの入浴剤等で寛いでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目（グループホーム温養院 やけやま・ゆめ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	日中なるべく活動的に過ごす様 にし、その人に合ったペースで休 息、休息が出来る様心掛けている。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の変 化の確認に努めている。	併設の特別養護老人ホームの医務 の管理と支援のもと服薬介助、確 認を行っている。一人一人の症状 の変化の確認・報告の連携もとっ ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援を している。	利用者の出来る事、得意なこと を楽しんで頂きながら、食事の準 備（材料を切ったり、盛り付け等） 家事を職員と一緒にやっている。 手作りおやつもメニューを増やし、 昔懐かしいおやつを作っている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している。	年間行事にショッピング、ドライ ブを取り入れ、定期的に支援して いる。	日頃から利用者の希望により、敷 地内への散歩等に出かけている。 又、お花見・春秋の遠足・買物ド ライブ等の外出行事や自治会との 合同盆踊りのような地域行事、地 域交流サロンや地域文化祭への参 加等、普段は行けないような所へ 外出し、「非日常」を楽しむことも ある。更に家族との外食も楽しみ の一つである。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を所 持したり使えるように支援して いる。	金銭管理が可能で所持を希望さ れる方には、助言をしながら使え るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目（グループホーム温養院 やけやま・ゆめ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の理解を得て、いつでも電話ができる様に公衆電話を用意している。年賀状等の発送を支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとの手工芸の作品を展示し、季節感を味わって頂く。 空調の温度設定も利用者に合わせて温度調整を行い、健康管理も行っている。	新旧2棟の平屋建てとなっており、新棟のホールは木の温もりのある和の設えで、穏やかな空間となっている。天窓には遮光カーテンが張られ、優しい採光を誘い、天井からは季節柄、傘の手工芸が下げられている。食事中はテレビを消し、昭和の懐メロが流れ、落ち着いて食を堪能できる環境が提供されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂・ソファに座る場所は決めず、好きな場所に座って頂き、気の合った利用者同士が会話し楽しんで頂ける様配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、思い出のある家具、家族の写真を貼り、落ち着いた居居作りには配慮している。	居室にはベッド・エアコン・クローゼット・洗面台等が備え付けられている。タンス等、使い慣れた物や誕生日の写真・ぬいぐるみ等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様にしている。又、必要に応じてポータブルトイレの設置や、夜間排泄時の転倒防止のためジョイント床マットを設置する時もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ等の場所が解り難い方には、表示を大きくし、分かり易いよう工夫している。		

V アウトカム項目( グループホーム温養院 やげやま ゆめ ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム温養院

作成日 平成30年8月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4・3	グループホームの運営推進会議を活かした取り組みで、情報共有の徹底さの不足。	運営推進委員会に参加されていない、利用者様のご家族様にも情報の提供を行い、共有していく。	グループホームの運営委員会の情報共有の為、代表で参加されていないご家族様に郵便及び玄関先に掲示する。	H30年7月度より実施する。
2	49・18	外出が難しくなっている方も、地域や外との交流を含め、施設外の雰囲気を楽しんで頂き、感じて頂く。(外の景色・雰囲気等)	全ての利用者様が、活気のある生活が送れ、出掛けて気分転換を図り、楽しめるよう支援する。	7月後半より、月2回日曜日に車を借りて、ショッピングや喫茶を行い地域の方と交流をもっと増やしていく。	H30年7月～ 6ヶ月間
3	60	利用者は、戸外への行きたい所へ出掛けている。(1/3位が実施している)	ほぼ、全員の利用者様が外出、出来る環境作りを行う。	利用者様の1/3位の外出だけでなく、全ての利用者様に施設外にて、刺激を与えて貰う。(ドライブ等)	6ヶ月～ 1年
4	64	通いの場やグループに馴染みの人や地域のが訪ねてきている。(たまに)	地域の方や幼馴染みの方が今以上に気軽に訪問出来る様、環境作りや場の提供を行っています。	利用者の知人等、訪問された時に親しみを持って声掛け対応し、又来たい雰囲気作りを心がける。	6ヶ月間
5	II 18	皆で出来る料理作りは行えてない。	皆で出来る(料理)環境作りを行っていく。	付添ながら、寄り添いながら皆様が出来る様に援助していく。 手作りおやつ・食材切り等。	6ヶ月～ 1年
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。